

情報ネットワーク時代における 読書好き大学生のペルソナ像

大阪経済法科大学
大学院修士1年 倪 映傑
経営学科2年 鈴木 姫奈
(指導教員 深瀬 澄)

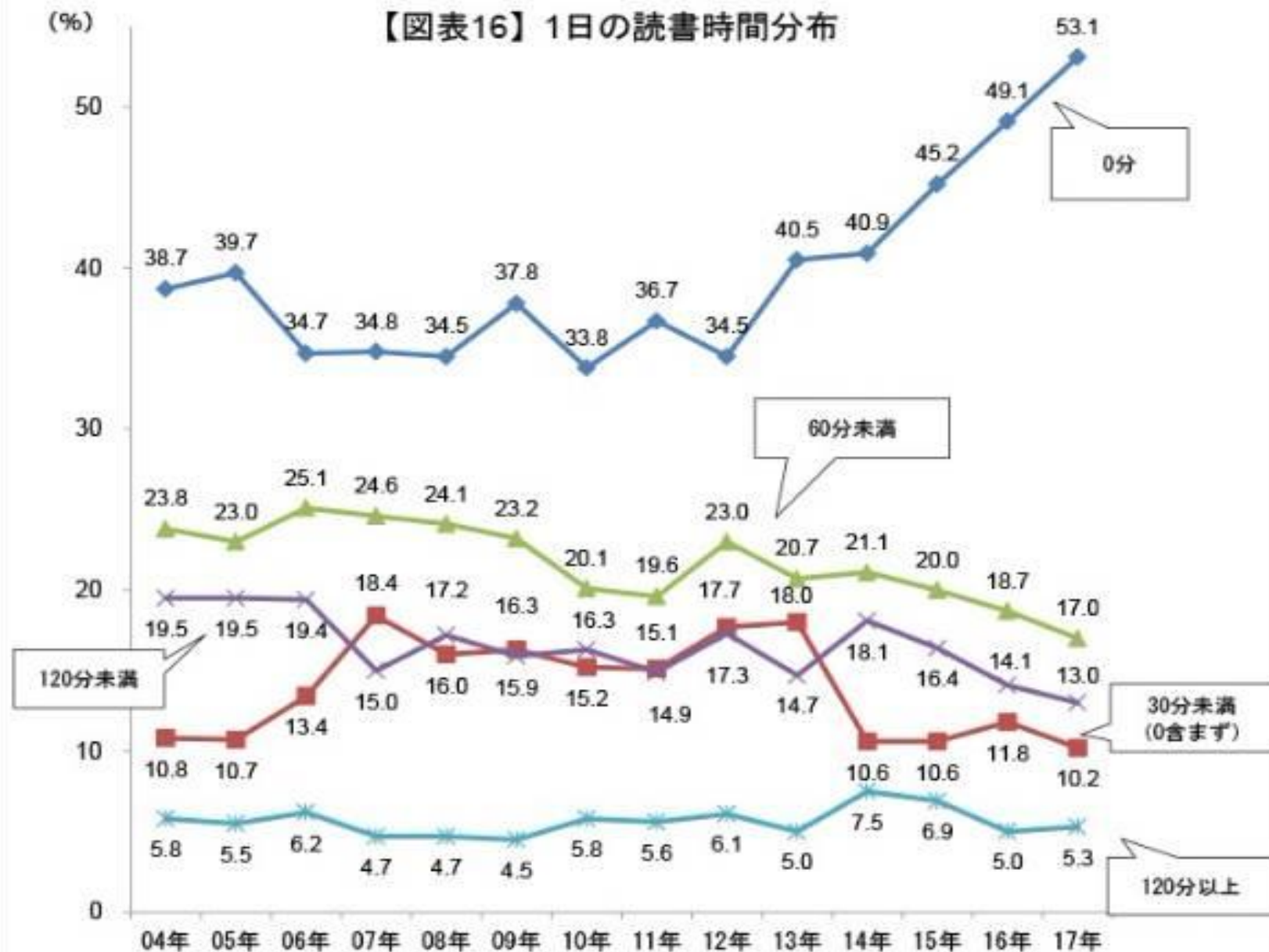
リサーチクエスト

- 情報ネットワークが進展し、必要な情報は携帯端末から、いつでも、どこからでも入手することができるようになりました。
- 敢えて、本に親しみ、読書に耽る大学生の像を探ってみたいと思いました。

大学生の読書時間が急減

- 1日の読書時間について大学生の53%が「ゼロ」。半数超えは、2004年以降初めて。
- 「第53回学生生活実態調査」全国大学生協連（2018.2、東京）
- 「本離れ」が若い世代で進行している実態が明確になり、アルバイトをする学生に読書時間ゼロが多いとの結果。
- 分析担当の浜嶋幸司同志社大准教授（学習支援）は、「高校までの読書習慣が全体的に身に付いていないことの影響が大きい」と指摘

【図表16】1日の読書時間分布



仮説

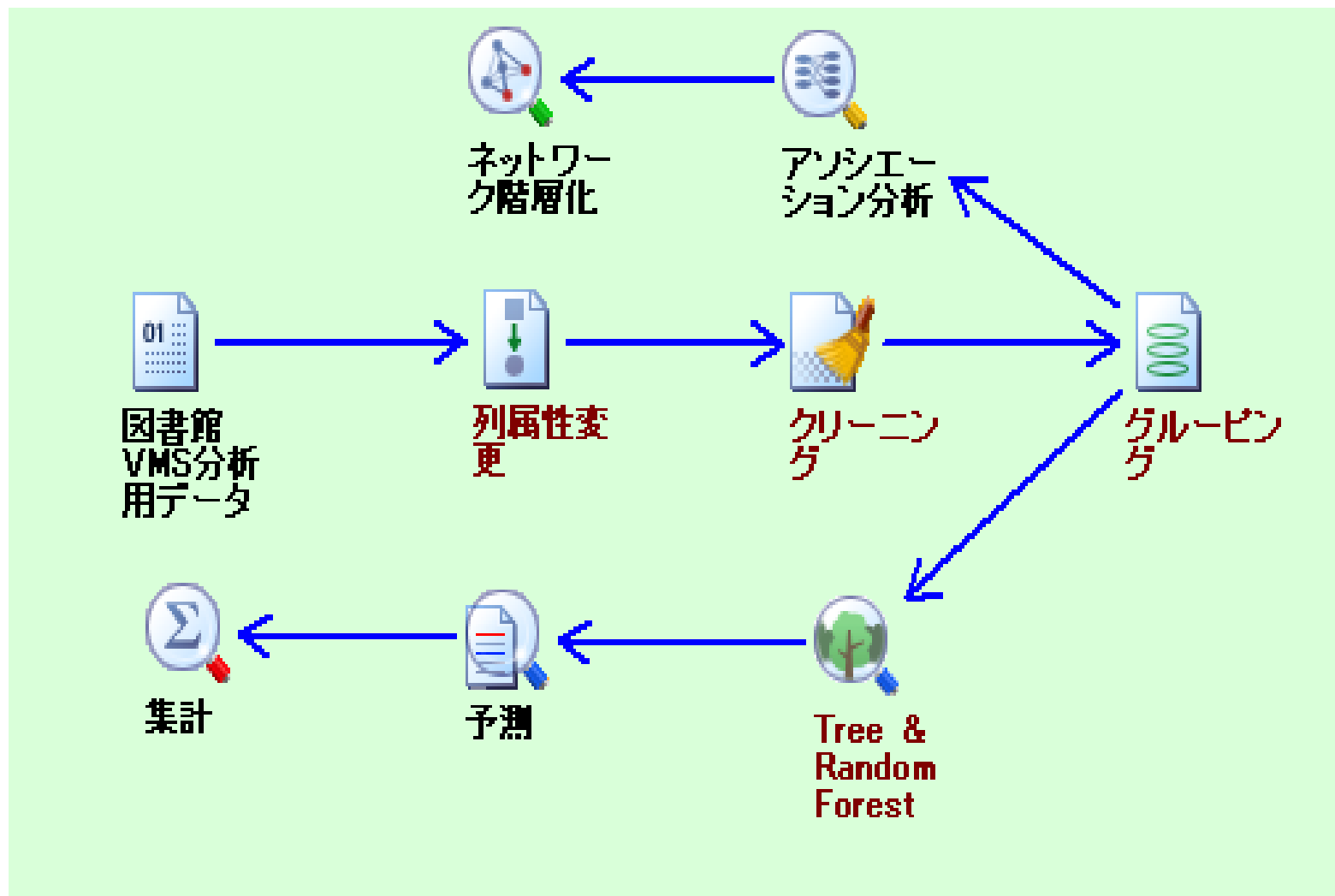
- H1: 大学図書館を良く利用する学生は読書量が多い。
- H2: 法律の条文や判例などの文献を参照する法律学科生は経済学科生や経営学科生よりも図書館を利用する機会が多く、読書量も多い。
- 授業の教科書を買っていない学生は読書量が少ない。
- H3: アルバイトや部活に忙しい学生は読書量が

アンケート調査の実施概要

調査名称	「大学図書館のサービス向上のためのアンケート調査」
調査方法	各教室を訪問し、紙ベースのアンケート調査票を配布。マークシートによる回答
調査対象	現役大学生 1年生～4年生
調査期間	2019年9月17日～10月4日
設問数	50問（うち該当項目選択式＝23問 5段階評価式＝22問 8段階評価式＝5問）
質問内容	I. 通学状況 II. 学生生活 III. 学修面の取り組み状況 IV. 勉強場所 V. 大学図書館の利用状況 VI. 読書の状況 VII. 図書館の充実に向けて
回答数	995件（内訳は下表、このうち有効回答は964件）

学科別	経営学科	経済学科	法律学科	国際学科	学科不明	合計
	226	154	579	0	65	995
学年別	1年生	2年生	3年生	4年生	学年不明	
	268	305	42	19	361	
性別	男性		女性		性別不明	
	722		226		47	

NTTデータ数理システム社の VISUAL Mining Studioによる分析



データの事前処理

- Visual Analytics Platformのクリーニングツールを用いて無効回答を除去した結果、有効回答数は922件に減少した。
- さらにグルーピングツールを用いて、1週間の読書冊数によって2グループに分け、
- 1冊以上読む学生を「読書愛好家」(361件)、それ以外をothers(561件)とした。

アソシエーション分析

- 以下のとおり設定し、結論として「1週間の読書量」に関係するもののみを抽出した。
- 長さ: 2
- 信頼度: 10%以上
- サポート: 10%以上
- Lift: 1.1以上
- Conviction: 1.1以上

アソシエーション分析の結果

読書愛好家のothersについて

前提	信頼度	サポート	Lift	Conviction
八尾図書館来滞在時間-30分以内	99.57	49.62	1.014	4.236
花岡図書館来館頻度-ほぼ毎日	99.55	23.84	1.014	4.071
教科書を買わない科目数-0	99.45	58.36	1.013	3.325
授業外の自習-1時間以内	99.37	51.24	1.012	2.922
アルバイト-15時間以内	99.30	15.21	1.012	2.604
サークル・部活等-3時間以内	99.24	14.13	1.011	2.421
通学時間(片道)-60~89分	99.13	24.60	1.010	2.109
資格講座-1時間以内	98.99	63.21	1.008	1.809
学科-法律	98.94	60.19	1.008	1.724

アソシエーション分析の考察

- 大学図書館の利用、教科書の購入、アルバイトやクラブ・サークル活動に節度をもつ、真面目な学生像は、仮説に反して、むしろ読書愛好家である確率が低下する、という分析結果となった。
- Convictionが高い数値を示したことから、読書愛好家の学生像は、日々の日課を規則正しく保持する学生ではなく、置かれた状況や明日の準備を忘れ、ひたすら、読書に没頭することができる破天荒な学生像が浮かび上がった。

ネットワーク階層化

- Visual Analytics Platformのネットワーク階層化ツールを用いて、アソシエーション分析により求めたルールを可視化した。
- 設定は以下のとおり
- 処理方法：Ward法
- クラスター数：7
- 対象列1：「前提」
- 対象列2：「結論」
- 類似度列：信頼度

ネットワーク階層化分析による考察

- ネットワーク階層化により、読書量に限定せず、学生生活の全体像を俯瞰した。
- 花岡キャンパスの大学図書館利用は、スクールバスに依存する交通手段に影響される。
- 法律学科生は、授業配布資料では不足、参考文献のニーズが高い。
- クラブ・サークル、アルバイト、また、資格取得の勉強との兼合いも読書量の制約となっている。

